

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第3回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成30年1月24日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時30分から午後12時30分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 斉藤主査 三内丸山遺跡保存活用推進室 高橋主事
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育部長 野呂忠久 文化財課長 成田正彦 同課課長補佐 村元広美 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 福原健 同課主事 東海林心 同課主事 佐藤信輔 建設政策課 赤石改良係長・朝倉主査 (株)空間文化開発機構 田口研究員
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備実施設計について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 ( 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 )	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備実施設計について

岡田副委員長：炉跡表示における“遺構の類似石材”というのは、石質も類似したものか。

事務局：炉跡の石材は安山岩であり、遺跡隣の河川で採取したと想定されることから、安山岩を利用する。

岡田副委員長：環状列石の組石は、違う石質のものがある。

事務局：組石石材は同質の石（基本安山岩）を治山ダムから入手する予定だが、1号組石では、花崗岩を利用している箇所もあるため、箇所に応じて石材を購入して賄うことも検討したい。

岡田副委員長：炉跡の石材は近似したものを選ぶ形となるのか。

事務局：現在、現地入手した石材の円磨度は、実物と同程度と思われるので、基本的には近似した石を選んで使用することとなる。

工藤委員長：炉跡は全部で何基あるのか。

事務局：屋外炉が3基、竪穴建物跡の石組炉が1基の計4基。

関根委員：樹脂モルタルは寒冷地で何か影響は受けないのか。

事務局：特に問題はないものと思われる。堀越城跡の整備でも使用予定であり、現段階で施工業者からは、特に問題はないとされている。

岡田副委員長：着色は、樹脂モルタルに塗料等を混ぜ込む形となるのか。

事務局：基本的に骨材として混入する真砂土等の色調を出す方向で整備する。顔料等でも色を出すことも出来るが、ややきつい色味になる可能性が高いと思われる。

関根委員：石が外れることはないのか。

事務局：ある程度の強度があるため、大丈夫と思われる。

田口研究員：樹脂モルタルはコンクリートの補修にも使われるものであり、コンクリートと同等の強度であるため、ある程度は大丈夫と思われる。石に穴をあけてアンカーを入れることも検討したが、作業量に比べて効果が薄い。樹脂モルタルは

補修も容易なので、外れてしまった部分は再度接着する形が良い。

工藤委員長 : 根城では、馬屋の屋根の石に1つ1つアンカーを入れて外れないようにしたが、補修の時に取り扱いが難しいと聞いている。この炉跡の石は小さいので、当遺跡においてアンカーは不要と思う。

工藤委員長 : 堅穴建物跡への出入りはどこからになるのか。

事務局 : 保護盛土が低い園路側からとなり、出入りは自由である。ただ、人の往来により表土の土が荒れる可能性はある。

岡田副委員長 : 保護盛土の遺構表示への流れ込みは大丈夫なのか。

事務局 : 流れ込みを抑えられる程度の傾斜としている。現状も大きな流れ込みは見られないことから、大丈夫なものと考えられる。

岡田副委員長 : 盛土を樹脂で固めたりはするのか。

事務局 : 固めなくても流れ込みはないものと思われる。種子吹付等も含めて、早期に草を繁茂させることにより、自然な形にできればと思う。経過観察を行いたい。

岡田副委員長 : 将来の維持管理の負担を考え、当初から対処できるとよい。

事務局 : 少なくとも4か年は工事が行われているため、その中で経過観察を行い、調整することは可能と思われる。

岡田副委員長 : 園路における立木の伐採は行うのか。

事務局 : 階段ルート等は現況の導線を踏襲するため、伐採はほぼない。小谷部分のスロープに関しては、ある程度の伐採は必要であるが、抜開により、空間に穴があくような事態は避けたい。

岡田副委員長 : 自然植生への影響がない形で進めてもらいたい。直線的に切ると見た目に問題がある。

工藤委員長 : 樹木は可能な限り避けるようなコースとしてほしい。

事務局 : 大部分がクマザサのため、影響は少ないものと考えられるが気を付けたい。

工藤委員長 : 園路と環状列石の高さは同じくらいになるのか。

事務局 : 周堤状の現況をそのまま盛土していくため、外周となる園路の方が少し低い。

工藤委員長 : 前回の委員会では、説明板が少し小さいという情報提供があったが。

事務局 : 説明板整備はまだ先の話であるため、今回の設計では触れていない。園路や遺構表示との取り合いを確認するため、前回お話ししたものだが、前回の指摘のとおり、大きくする方向で調整したい。本整備までの間は、市費による仮設説明板で情報提供するものとしたい。

県斉藤主査 : 現状変更の方針は。

事務局 : 数量等が固まり次第、手続きを行うこととしたい。年度明けには一度国とも協議をしたい。

工藤委員長 : 包括的現状変更となるのか、それとも個別に諮っていくのか。

事務局 : 文化庁記念物課史跡部門と協議が必要となる。当遺跡の整備は量的に微妙なラインと思われる。堀越城跡では包括的現状変更としているが、実際の作業量と許可までの期間は、ほぼ個別の現状変更と同等になっている感じがある。いずれ、国と協議していきたい。

## 議題（２）その他

事務局より、来年度事業方針や今年度の公開活用事業の実績報告などを説明。

事務局 : 設計業者にパース図を作成してもらった。遺跡全体だと環状列石や竪穴建物跡が小さく見えてしまうため、台地上のみとし、環状列石北東から見た景観のものとしている。画角等の調整について了承頂ければ、着色作業に入り、年度末には完成させたい。ただ、どの季節にするかはまだ決めていないため、委員のご意見をうかがいたい。

関根委員 : 手前の炉跡が少し大きく感じる。

事務局 : 全体と比べながら修正したいと思う。

工藤委員長 : 参考資料としての写真の時期はいつか。

事務局 : 10月頃の撮影。

岡田副委員長 : 季節により値段等が変わってくるのか。

事務局 : そうではない。

工藤委員長 : 残雪なり冠雪なり、見栄え的に岩木山に雪があった方が良いとは思う。

事務局 : パース図は1季のみでも良いかと思う。4季毎の空撮写真もあるので、こちらも活用していきたい。パース図については、事務局で季節を決めて、完成したものを委員へ提供することとしたい。